



第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／吉岡 康行 広島県教育委員会事務局教育部生涯学習課 社会教育監
鹿島 嘉節 大分県立図書館 学校・地域支援課 社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

1 ハッチョウトンボを通じた地域ぐるみのESD学習 13:35~14:05

岡本 修治(島根県浜田市) 浜田市立雲城公民館 館長

平成25年、耕作放棄地に絶滅危惧種Ⅱ類のハッチョウトンボが発見された。一円玉ぐらいの小さな貴重種である。この発見を活用し、子どもたちにふるさとへの誇りをもたせ、環境に対する意識を育てることを目的に、大人も一緒に保護活動を進めている。活動は、「ハッチョウトンボを守る会」を中心に、雲城公民館、雲城まちづくり委員会、小中学校、地域住民で、主な活動場所は耕作放棄地(トンボ公園)。小学校の野外観察指導や観察会と学習会、枯草の除去などの活動をしている。小学生は、環境学習としてハッチョウトンボを題材の環境ポスター、歌、ダンス、グッズづくりを通して活動への意欲を高めている。

2 「親孝行の里」の地域力の源泉
～津波見名(つばみみょう)振興協議会の挑戦～ 14:10~14:40

山下 信二(長崎県南島原市加津佐町) 津波見名振興協議会 顧問

南島原市加津佐町の津波見名振興協議会は、旧津波見小学校の学校行事であった孝子祭を、親孝行の教を学ぶ地域の取り組みとして平成27年度から引き継いで実施しています。平成30年4月から廃校を活用した交流施設「孝子の里 つばみ交流café」をオープンし、来客数は1営業日当たり30~50名に達しています。平成30年度ながさき農林業大賞(げんきヴィレッジの部)を受賞しました。現在、津波見地区の高齢化率は49%と高いですが、「地域力を高めて地域を変えていく」活動をめざしています。

ティータイム 14:40~15:05

3 「このまちにくらいしたいプロジェクト」の運営と手法 15:05~15:35

為政 久雄(広島県広島市) 古田公民館 主事

ESD(持続可能な開発のための教育)の視点で、中学生と地域住民が一緒になって地域課題に向い合い、多様な世代が共生できる社会づくりを目指しています。主催は「古田公民館」、共催は住民グループ「多世代寺子屋ネットワーク」です。注目は、中学生の発案で「みんなが幸せに使える公園」をテーマに、ワークショップを重ね企画したイベント、「冒険あそび場ワンダふるたパーク」を実施し、公民館が多世代の居場所づくりの拠点となり、地域住民の絆を深めています。

4 「いづか市民マナビネットワーク」のシステムと取り組み 15:40~16:10

村岡 剛(福岡県飯塚市) 飯塚市教育委員会教育部生涯学習課 中央公民館・図書館係

「知っている人が、知りたい人に教える。」という原始的な「学び」に着目し、「いつでも、どこでも、誰でも」学べる生涯学習社会の構築に着目した事業。ボランティアで教えていただく高齢者等有志指導者を認定・登録し、学びたい人が5人(以上)集まれば、指導者を派遣するというシステム化した事業形態である。また、「マナビネットワーク」は、「学び」をキーワードにした「まちづくり」(学縁都市づくり)を目指す事業で行政(中央公民館)と民間の協働事業で推進している。平成21年9月に発足し、本年度で10年目を迎える。受講者も年間延1万人を超え、通称「e-マナビ」で市民に親しまれている。